

第3回水稻病害虫発生予察結果(伊豆市内)

4月下旬～5月上旬田植えの早生品種(コシヒカリ・ひとめぼれ等)

【稲の生育状況と栽培管理について】

巡回したほとんどの田んぼで分けつ数が20本以上を確保できています。1株の分けつ数が20本程度確保できたら中干しを開始してください。中干し期間は田んぼを見ながら地面に軽くヒビが入る程度を目安に行ってください。やりすぎは地面にヒビが大きく入り稲の根を切断し生育不良の原因となります。



地面にヒビ割れを確認
できたら中干し終了の目安

【病害虫の発生状況】

市内の一部の田んぼで『いもち病』の発生が見られました。病原菌は田んぼ内で空気感染し、葉や稲穂にいもち病の症状が現れます。放っておくと米の収穫量が著しく減少するので、症状を確認したら直ちに農薬による防除を行ってください。

《いもち病防除薬剤：オリブライト 250G》

適用病害名	使用量	使用時期	本剤使用回数	使用方法
いもち病	250g/10a	出穂10日前まで(但し、収穫45日前まで)	1回	散布

参考：昨年度出穂時期＝7月22日頃(伊豆市内)



葉いもち病症状
(茶色の楕円形病斑)



オリブライト 250G
(いもち病防除薬剤)

5月中旬～下旬田植えの中晩生品種(きぬむすめ・あいちのかおり SBL)

【稲の生育状況について】

中生・晩生品種では、分けつ数が10～18本程見られます。稲の分けつを促すためには夕方に水を入れ翌朝止めることで日中の水温が確保でき、分けつ数が増えやすい環境となります。今回の調査では病害虫の発生は確認されませんでした。